

2024 年度第 2 回町田市食育推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進委員会	
事務局 (担当課)	保健所 保健予防課	
開催日時	2025年2月13日(木) 14:00～15:35	
開催場所	町田市保健所中町庁舎 1階講堂	
議題	1 開 会 2 保健所長挨拶 3 報 告 (1) 2024年度第2回町田市食育推進庁内連絡会報告 【資料1】 (2) 町田市民間提案制度を活用した食育事業の募集について 【資料2】 4 議 事 (1) 「まちだ健康づくり推進プラン24-31」の進捗調査シート (案) について 【資料3～6】 【資料7】 (2) 2024年度市民参加型事業評価について 【資料8】 【資料9】 【資料10】 5 その他(連絡事項等)	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開
出席者	委員	調所 勝弘 (学識経験者) 風張 眞由美 (町田市医師会) 神蔵 宗 (町田市私立幼稚園協会) 常盤 理恵 (市内小学校栄養教諭) 米澤 加代 (市内大学教員) 新倉 敏和 (町田市農業協同組合) 山下 幸光 (市内農業者) 高尾 花 (町田集団給食研究会) 原 慶子 (町田地域活動栄養士会) 亀田 文生 (町田市観光コンベンション協会) 沼尻 宗子 (町田市立鶴川第四小学校 PTA 会長) 中瀬 美帆 (町田市立中学校 PTA 連合会)
	事務局	保健予防課
欠席者	委員	山崎 進二 (東京都町田市歯科医師会) 千葉 勢子 (町田市法人立保育園協会) 岩崎 直美 (町田市公立小学校校長会) 矢島 加都美 (町田市公立中学校校長会) 浦嶋 澄香 (市内高等学校教諭) 松井 大輔 (町田商工会議所) 山口 晃 (東京都町田食品衛生協会)

配付資料	次第 【資料 1】 2024 年度第 2 回町田市食育推進庁内連絡会報告 【資料 2】 民間提案制度について 【資料 3】 進捗調査シート（案）記入例 【資料 4】 進捗調査シート（案） 【資料 5】 食育推進の体系図（案） 【資料 6】 （参考）2023 年度第 2 次町田市食育推進計画進捗管理シート 【資料 7】 食育報告書書式 【資料 8】 町田市市民参加型事業評価当日資料 【資料 9】 市民参加型事業評価結果概要 【資料 10】 食育すごろくを活用した食育推進について 2024 年度町田市食育推進委員会 委員名簿 まちだ健康づくり健康推進プラン 24-31（閲覧用）
------	---

検 討 経 過

1 開 会

2 保健所長挨拶

3 報告

（1）2024 年度第 2 回町田市食育推進庁内連絡会報告 【資料 1】

事務局：

【資料 1】をご覧ください。

1 月 30 日に実施した当委員会の下部組織である 2024 年度第 2 回町田市食育推進庁内連絡会の報告をいたす。内容は資料のとおりである。

報告事項は 2 点。

1 点目は、当委員会の第 1 回の開催報告を行った。アンテナの高い家庭だけが恩恵を受けるのではなく、みんな平等に食育の機会を与えられるよう市全体で取り組んでほしい等の意見があがったことを報告した。

2 点目は民間提案制度について報告を行った。こちらに関しては後ほど報告させていただく。

議事は 2 点。

1 点目は、まちだ健康づくり推進プラン 24-31 の進捗調査シート案についてである。こちらも後ほど同じ内容をお伝えする。

2 点目は 2024 年度市民参加型事業評価についてある。市民の方々から保健所保健予防課で運営している食育の SNS について、もう少しうまく運用できないものかのご意見が出た。このことについて解決の糸口を探るべく、SNS を運用している他課の委員に工夫点や問題点を問うたところ、今好調なゼルビアと一緒に事業を行い、それに関する内容を掲載したときは閲覧数が格段に違う、学生と連携して実施したときは、自身の SNS でも発信してほしいと伝えている、市役所の性質上、決裁が行われての投稿になるので記事のタイムリーさに欠けがちだとの意見がでた。

報告は以上である。

（２）町田市民間提案制度を活用した食育事業の募集について 【資料２】

事務局：

【資料２】の町田市民間提案制度について、説明する。

町田市では2024年度より、市が提案を受けたい行政課題や公共事業等をテーマとして設定し、民間事業者等から提案を募集する「テーマ型」の民間提案制度を開始した。保健予防課では、食に関する事業の提案を1月15日から町田市ホームページに掲載し、募集している。

募集内容の詳細について、【資料２】をご覧ください。

提案事業のテーマは「健康的な食生活の推進」である。

募集事業の概要は、健康的な食生活の実践に関心がある人も関心がない人も、自然と望ましい食生活の実践につながるアイデアの募集である。

この取り組みを通して、市民が日常生活の中で意識せず、健康的な食生活を実践できる、また、健康的な食生活に関心がない人にも関心を持ってもらえる未来を実現したいと考えている。

生活習慣病の予防や健康寿命の延伸には、野菜摂取や減塩の取り組みが有効であるが、町田市民の現状として、野菜摂取量も減塩も国の目標値には達成していない状況にあること、また、今までも講習会やイベント、SNSなどを活用した周知などを行っているが、それはすでに健康に関心がある人へのアプローチとなっており、健康に関心がない人にどのようにして関心を持ってもらうかが課題となっていることを踏まえ、「市民の望ましい食生活の実践（特に野菜摂取量の増加や減塩の取り組み等）につながるような事業を対象」としている。

【資料２】裏面一番上にある「想定する提案の例」として、

- ・野菜摂取量の増加や減塩の取り組みにつながる商品（加工食品、弁当・総菜、メニュー等）の開発及び販売。
- ・市内飲食店やスーパー等で、野菜摂取や減塩をテーマとした市民向けのイベント等の開催。
- ・食品関連事業者が開発している減塩食品等の無償配布など、ノベルティを活用した市民へのアプローチ。
- ・地場農産物を使用した市の名物になるような献立の開発及びその普及。

との内容で提案を募集している。

提案できそうな事業者の情報提供をいただけると幸いである。

報告は以上である。

委員長：

健康への無関心層が自然と健康になれる仕組み作りがこの提案に含まれているのではと思うが、良い提案はないだろうか。

委員：

観光コンベンション協会では名産品、地場農産物などをあつかっている。小田急とコラボレーションし、町田の駅弁を町田駅、鶴川駅、新百合ヶ丘駅で販売している。地場産ということで売れ行きは好評である。町田市観光ガイドツアーを行い、地場の生産、加工業者の紹介をしている。このような場所に働きかけができるのではと考える。

委員：

JA では鶴川支店、南支店、忠生支店には料理教室ができる施設がある。現在は JA の女性部のみで活動中であり、有効活用していない。この施設を使い連携し、食育につなげていけると良いと考える。

4 議事

(1)「まちだ健康づくり推進プラン24-31」に基づく食育推進について

委員長：

次第の4議事に入る。議事(1)「まちだ健康づくり推進プラン24-31」の進捗調査シート(案)について事務局より説明をお願いします。

事務局：

(1)「まちだ健康づくり推進プラン24-31」の進捗調査シート(案)について説明する。

【資料3】、【資料4】、【資料5】、【資料6】をご覧ください。

前年度で第2次町田市食育推進計画の期間が終了し、今年度からまちだ健康づくり推進プラン24-31に変更となっている。計画が終了したため、実施した食育の取り組みをまとめる書式が新たに必要となり、【資料3】、【資料4】の進捗調査シートを作成した。【資料3】は入力方法の説明、【資料4】は実際の書式である。前の第2次町田市食育推進計画の報告として、1年間の食育のまとめとして入力いただいていたのが【資料6】の(参考)2023年度第2次町田市食育推進計画進捗管理シートである。昨年度までは食育計画が単独で存在していたが、今年度からは健康づくり推進プラン24-31の中に入り、3つの計画が統合された。そのため、一部の分野(食品衛生や歯に関することなど)は食と関係があるにも関わらず、少し別の分野とみなされ、食育とは異なる別の目標に位置付けられている。とらえ方によっては、昨年度まで食育だった歯や食品衛生に関することは、今年度からは食育ではないとなりかねないため、これらを含めた【資料5】の食育推進の体系図を事務局で作成している。【資料5】の食育推進の体系図に書かれている取り組み例については、過去の実績から、分類している。1つの取組に対し、実施内容や取り組み方法により複数の施策にまたがることも想定しており、2か所に同じ取り組みが入ることもあると考えている。また、この表で全ての食育の取り組みを網羅しているわけではなく、あくまで例として入れている。よって新たな報告様式である【資料3】、【資料4】の進捗

調査シートの施策や施策の方向性の入力欄には、【資料 5】の食育推進の体系図を参考に分類していただくこととなる。

【資料 4】は前年度の実績である【資料 6】を元に事務局である程度入力したものになる。委員会に関係のある部分のみ示しているが、実際は、町田市役所内で行った食育が一覧になっている。改めて依頼させていただくが、今まで同様、食育の取り組みを行った場合、【資料 4】の進捗調査シートで是非報告いただければと思う。【資料 4】には前年度の実績が入っているが、今年度実施していなければ削除し、新たなものを実施していれば追加をお願いできればと思う。

また、【資料 4】の進捗調査シートで報告した取り組みの中で、特に新しい取り組み、ぜひ詳しく紹介したい取り組みがあったら、【資料 7】の食育報告書書式で報告いただきたいと考えている。

以上である。

委員長：

ここまで「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」の進捗調査シート（案）について、事務局より説明があった。

今年度から町田市食育推進計画は、「食育」と「健康づくり」「自殺対策」の3つの計画と統合した「まちだ健康づくり推進プラン 24-31」となったため、昨年度までの様式が変更されたとのことである。新たな様式について、意見をいただきたい。

（特になし）

それでは委員の中で取り組まれた食育事業があれば、ぜひご報告いただきたい。

委員：

白い砂糖はミネラルが少なく、かなり精製されているため、違う種類のものの使用、自然の甘さを使用した給食の提供・調理を子どもが在籍している小学校の給食委員会で提案した。他には保護者向けの食育セミナーの開催を予定している。

委員長：

続いて、議事（2）2024 年度市民参加型事業評価について、事務局より説明をお願いする

事務局：

市民参加型事業評価結果について、説明する。

【資料 8】は 11 月に実施した 2024 年度市民参加型事業評価の当日資料である。保健予防課で昨年度までに取り組んだ食育の内容についてである。こちらの内容を説明するとかなりの時間を要するため割愛させていただきたい。

【資料 9】をご覧ください。概要は、評価対象事業について、高校生を含む市民と有識者で構成する評価人チームが、事業所管課の担当者との対話を通じて、事業の問題や課題等を洗い出し、現状を評価する。その後、評価人チームと町田市で課題の解決策を考え、事業の改善のための取り組みを示した改善プログラムを作成し、事業の改善を進めるという事業となる。今回は保健予防費のうち、食育推進事業が評価対象事業として選ばれた。事業評価実施日は2024年11月10日（日）で、評価をする評価人の方は、コーディネーター1名、有識者評価人2名、市民評価人1名、高校生評価人3名、大学生評価人1名の計8名で評価が行われた。

【資料 8】を評価人に事前に渡し、評価人チームが考える食育事業に対する問題点を挙げていただき、うち2点に論点を絞り、当日、議論を行った。評価人チームが考える問題点の1つ目は、現在、行っている食育の周知が、関心度や世代、性別などと合っていない、SNSなどの発信に工夫が必要ではないかとのことから、論点の1つ目は「効果的な周知・啓発方法について」となった。2つ目は、高校生評価人の若い世代からは、市が発信している健康情報は「こうすると良いよ」というポジティブな情報発信ばかりで、危機感を感じないので、自分たちのような若者や無関心な人には響かない、「こうしないとダメになってしまう」というもっとネガティブな悪影響に関する発信をした方が若い世代には響くという意見があった。また、情報発信だけでは、行動変容につながらないので、強烈な体験が必要であり、民間企業や大学とも連携した「体験」を充実させる必要があるとの意見から、論点の2つ目は「若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について」となった。

「食体験の機会の充実」については、第1回の当委員会でも、委員の皆さまから同様の意見をいただいている。当日の評価結果は、一部改善すべきということで、「市が実施する事業として、市民の健康を支えるという意味で、大変意義深く、内容としても評価ができる」が、改善すべきこととしては「実施方法や周知方法はターゲットにより訴求できる方法を検討してほしい」とのことであった。裏面をご覧ください。議論のポイント1の効果的な周知・啓発方法については、とてもよい取り組みをしているのにもかかわらず、市の事業を知らない人が多いように感じるため、食事の大切さや、正しく栄養が取れないことの悪影響を訴求するなど、SNS等で発信する内容を工夫する必要があるのではないかが主な意見であった。取り組み提案としては、対象者によつての周知方法の使い分け、例えば若者であればSNS、高齢者であれば市の広報、働き世代へは健康診断の結果などを利用するなどの工夫や、まち☆ベジーズを活用した四コマ漫画などでの発信、興味がわくようなSNSの表紙の工夫が必要であり、SNSの発信については、今の表紙の内容では全く興味がわかない・・とかなり厳しい意見をいただいた。その他、SNSを活用したレシピコンテストの開催、例えば、ハッシュタグ・町田野菜・レシピで市民の皆さんに発信してもらってコンテストを行うことや、学校での子どもへの食育だけでなく、家庭へ食育の情報が届くよう学校と連携した周知などがあった。議論のポイント2の若者・無関心層に向けた効果的な推進方法についての、主な意見は、若者や無関心層の行動変容を促すためには、民間企業や大学等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないかとあった。取り組みの提案として、家庭や若い世代でも活用しやすい手軽なレシピの周知や「すいとん」の活用について多数意見をいただいた。家庭でのすいとんの普及は難しいが、若い世代への普及でまちだすいとんの高校や大学の文化祭、学食での提供の提案があった。

また、地元スーパーへの保護者向けのレシピ設置や、体験を増やすために、学校や民間企業との連携が必要であるとの提案があった。無関心層に対しては、関心を持ってもらうための工夫として、流行りのドラマ「おいしい給食」とのコラボや、高校生や大学生が身近に感じるテーマで「勉強中」「運動後」「眠くなりにくい」等、目的別のおすすめ食事内容の発信や、市の関係部署や関係機関が連携した取り組みの継続などが提案された。

【資料 9】裏面の下の【今後のスケジュール】で、2 月 4 日改善プログラム「決定」となっているが、「決定」ではなく「検討」の間違いである。修正願いたい。先日、2 月 4 日に検討をおこなった評価人と、事業改善に向けた検討を行った。改善できる取り組みとして、SNS の発信の工夫や、まち☆ベジーズを活用した新たな取り組み、目的別のレシピの発信などを提案した。あわせて、高校生や大学生などの若い世代との連携、民間企業や関係部署とのさらなる連携を検討していく。改善プログラムは 2 0 2 5 年 3 月に公開予定である。
【資料 8】・【資料 9】の説明は以上である。

続けて【資料 10】の食育すごろくを活用した食育推進について、説明する。

【資料 10】をご覧ください。市民参加型事業評価での評価人の意見から、他課との連携やまちベジーズを活用した取り組みが求められている。今回提案する「食育すごろく」は、食育に関わる各課が取り組んでいる食育の内容を盛り込んだすごろくを作成することで、市民への普及啓発を目的として連携し、さらに、まち☆ベジーズサイコロを活用することで、食育への興味関心を高めることを目的としている。

想定する対象は、乳幼児（保育園・幼稚園）、小学生（学童保育クラブ、小学校、子どもセンター）、家庭（子ども・保護者）である。すごろくなので、中学生以上の年齢になると、遊ぶ機会がないのではないかと思います、小学生あたりがターゲットになるかと考えた。想定する活用方法としては、保育園、幼稚園や学童保育クラブなどの遊びの場での活用、町田市ホームページに掲載し、家庭で活用していただくことを考えている。

想定するテーマは、対象者別の食に関する内容（乳幼児・小学生など）、他の年代でも活用可能であれば、その年代に合わせた内容や行事食や和食など、分野を限定した内容で作成も良いと考えている。

参考資料として、3・4 ページに「八王子食育すごろく」「農水省食育すごろく」「農水省和食すごろく」を添付しているので、ご参照いただきたい。

すごろくマスの内容としては、市民に普及啓発したい食育推進に関すること、テーマに沿った啓発内容（行事食、地産地消など）などを考えている。3 ページにイメージ図を載せているが、あくまでもイメージで、マスの数も記載内容も決定ではない。マスに記載する内容については例で記載しているような「食材を無駄にしまったので、1 マス戻る」など、市民に普及啓発をしたい内容で考えている。また、活用方法として、自分オリジナルの物を作成できるように空白のマスを作っておき、記載してもらうのも良いかと考えている。

第 2 回町田市食育推進庁内連絡会の学童保育や子どもセンターの委員から、人生ゲームのイメージで止まったマスで野菜や食材カードがもらえ、最後に集めたカードで作れる料理

の数を競う。最初にゴールした人でない人が勝てる。空欄のマスをつくりそこにおける様々なカードを作成し、自分たちで空欄にカードをおいて、都度内容を変えていけるなどに工夫があると良いという意見があった。町田のオリジナル色をだせると良いと思っている。工夫、アイデア、対象者、テーマについて意見をいただきたい。すごろくに関する意見についてはあらためて依頼させていただきたい。

【資料 10】の説明は以上である。

委員長：

ただいま、2024 年度市民参加型事業評価について、事務局より説明があった。

評価人から、食育事業の取り組み内容について概ね良い評価の一方で、効果的な周知・啓発方法、特に SNS の発信や若者や無関心層への啓発については、多くの意見をいただき、食体験の充実や民間企業、市の関係部署、関係団体との連携についても、もっと進めてほしいとのことであった。

事務局からは、評価人からの意見を踏まえ、まち☆ベジーズサイコロを活用した、関係部署と連携した新たな取組として「食育すごろく」の提案があった。

市民参加型事業評価での評価人からの意見から、今後、考えられる食育の取り組みや事務局から提案があった「食育すごろく」の活用について、委員から意見や提案をいただきたい。

市民参加型事業評価では、若い世代へのアプローチとして大学生との連携について意見が出ていた。大学や学生と何か一緒にできる可能性などあるか。

委員：

本学は栄養士養成課程なので若者の中では意識が高い方ではないかと思うが、それでも朝食欠食率が高くなってきており、現在は中食等で手軽に食べものが手に入るので、毎日手軽に食事を作る方法を身に付けていない学生が多い。今年度、大学のゼミで、ひとり親家庭や養育家庭、生活保護受給家庭の子どもを対象とした町田市の学習支援教室の特別教室として町田市の中学校の家庭科室を使用し、出張料理教室を開催したり、苦手な野菜について事前アンケートを行い、あえて苦手な野菜を使い、学生が考案した簡単にフライパン 1 つでできるレシピを使用し、近隣の小学生と学習支援教室を対象にそれぞれで料理教室を行った。「苦手な野菜は食べられたか」の事後アンケートでは近隣の小学生は 100%が食べることができた。学習支援教室では 80%が食べることができたと答えた。単発では効果は出にくいですが、継続して変化を観察していけたらと考えている。野菜に特化した教室になると集まり悪く、市民参加型事業評価の意見と同様に効果的な周知が課題になっている。また、スローフード、地産地消も合わせて行うことも検討したが、日常で使用する野菜は地産でないものが販売されていることが多く難しかった、農家と連携すれば地産地消も可能ではと考える。無関心層である高校生、大学生を対象としての連携については学食や学園祭でのすいとん提供が行えると思う。

委員長：

続いて、食や健康に対して無関心層への効果的なアプローチ方法や、普段診療をされていて食育に対して感じる課題などについての意見や提案をいただきたい。

委員：

普段の診療で感じることは母親、子どもともに忙しく、食事作り、摂取に時間をかけられず、朝食を食べない子どもは保育園児から多くいることである。そのような中で保育園、小学校の給食がバランスよく食べる一つのフードモデルとしてあることは良いことである。4月から中学校も開始される。成長期の子ども、年齢にあった十分な食事を準備するのが困難な貧困家庭にとっても1食でもバランスの良いと食事がとれることは良いことである。食育すごろくであるが、遊びの中で活用できたら良いのではと思う。

委員長：

評価人から、学校での子どもへの食育は進んでいるけれど、保護者へなかなか届いていないというような意見もあったが、保護者の立場から食育について感じていることなどについての意見や提案をいただきたい。

委員：

学校での子どもへの食育は進んでいるけれど、保護者へなかなか届いていないという意見に同感である。食の情報を知らない保護者が多いが、知らずして食事を提供するのと、知っていて食事を提供するのでは意識が変わるのではと思い、来年度に保護者向けの食育セミナーの開催をすることとした。

昨日、健康教育を推している企業の方と話した中で、自分たちの伝えたいことを直に伝えようとしても響かない。「美肌」「若返り」などキャッチしやすいキーワードで声掛けをすると興味を持ってくれると話していた。無関心層などにはこのようなことを意識して発信すると良いのではないかと。

委員：

小学校ではベジチェックを行っていて、子どもは合格をねらい、家庭でも保護者に野菜を出してくれと要求する子が多いと聞いている。子どもには目に見えてわかることが効果的であると感じている。

取り組みとして、まちだすいとんの給食での提供や子ども食堂で子どもたちと一緒に作るなどができたら良いのではと思う。

食育のターゲットとする年齢層として保育園児、小学生、高校生は出てくるが、中学生が出てこない。自ら進んで食のことについて調べることのない中学生に向けたアプローチが必要ではないか。

委員長：

評価人からは、様々な部門と連携して食体験を充実させていくことが必要との意見が出ていた。今後の可能性などについての意見や提案をいただきたい。

委員：

現在、猛暑で野菜が育たない、米の高騰などで市場が混乱していることや生産者の高齢化等で日本の食が危機的状況であると感じている。食育の中に農業の大切さも取り入れながら連携できれば良いと思う。まち☆ベジブックが新しく発行される。町田の農業が詳しく載っており、子どもも興味を持てる内容であるので是非見ていただきたい。

委員：

生産者からの立場で、保育園での収穫体験などの食体験。幼稚園から小学校低学年までの子どもを対象に、もち米を田植えから収穫まで体験する米作り農業体験を行っている。小さい時から農業体験をすると野菜や食に興味をもち、成長していく過程での食育にもつながるのではと思う。収穫体験は子どもが興味をもち、楽しみにしているのを見ると効果があるのではないかと思う。

委員：

町田市観光コンベンション協会は町田に人を集めるという大きな目標をもっている。情報発信は大きな武器だと感じている。SNSを毎日のように掲載していて、フォロワーは10,000人をこえているがいいねはなかなかつかない。今年度は藤の台小学校、小田急電鉄と連携し、授業の一環として、薬師池公園をアピールする授業を行った。小学生がデザインしたポスターを作成し、小田急電鉄の駅構内に掲載した。子どもにとってはかなりのインパクトがあったのではないか。もう一つはイベント時に子どもが考えた謎解きゲームを行った。この授業を行ったことで子どもの意識は高くなったのではないかと思う。中学生においては、市内の和菓子屋と連携し、自分がデザインした和菓子をツーリストギャラリーにて自分で販売するという体験を行った。このように授業の一環として考えることができれば、身になり、考えるきっかけとなるのではと思う。

委員長：

地域と連携して取り組むことや施設の栄養士と連携した取組について、今後の可能性などについての意見や提案をいただきたい。

委員：

無関心層に伝えるということは難しい。高齢者施設においても同様である。施設では認知症、高血圧、腎機能低下が多く、腎機能が低下している人は無関心の人が多い。無関心であるからこそ腎不全になってしまう。現在、高齢者施設の若い方（60～70代）が増えている。本人だけでなく、家族も無関心である。無関心であるがゆえ、塩分の高い差し入れを持ってきてしまうこともある。伝えることの難しさを感じており、インパクトのある発信も必要なのではと思う。野菜摂取と減塩については、国民全体の問題であると思う。野菜摂取の目標量と食塩の摂取目標量が変更になっていないのは、国民健康栄養調査の時に目標値に未達成だったため、変更なしなのであって、国民が健康になったわけではない。これを考えると野菜摂取と減塩は大きな問題である。

まちだすいとんについては、食材がセットされたミールキットのようなものなど簡単に摂取できるものがあったら広げられるのではないかと思います。

委員：

くらしフェアのスポーツ栄養のポスターの掲示の協力感謝申し上げる。参加人数が43名と少ない結果となった。現在、人を集めるということが各団体で課題となっている。くらしフェアに来所する人は食に関して関心がある人であるので、朝食の喫食率の調査は96%、朝食に野菜摂取している人は80%と多い。朝食を食べないとされる若い世代でも食べなければいけないことはわかっていると回答がある。成人式でも調査を行ったが、朝食の喫食率は72%、朝食に野菜摂取している人は37%と少ない。中学生から食べていないや食べる時間がないという回答があり、環境的に朝食摂取できない状況にあると感じた。減塩や野菜摂取にはお金がかかり、経済面にも関係してくると思う。無関心層へのアプローチとして、スーパーの総菜などで自然と野菜が摂取できる状況をめざしていき、栄養士として野菜を食べなさいというアプローチではないアプローチも必要なのではと思う。

委員長：

無関心層に対して関心をもってもらうのは大変難しい。知らず知らずのうちに減塩や野菜摂取ができているなどの仕組み作りが大切だと思う。

委員：

関心層においても過剰摂取の問題も考えなければならない。

委員長：

食育を身近に感じてもらうための食育推進キャラクターまち☆ベジーズの活用方法や食育すごろくを作成した場合、その活用可能性、アイデアなどについての意見や提案をいただきたい。

委員：

私立幼稚園 38 園では食育をしっかりと考えながら活動している。この活動の中ですごろくを楽しむ、年末年始に家庭に配る。自園で給食を行っているところであれば、給食を入れていくなどできると考える。子どもに対する食育はできていると思うが、保護者はとても忙しい。土日に 1 週間分をつくるなど考えている方がいる一方、野菜摂取のことなど考えられない家庭もあり格差がある。スーパー等で減塩や地産地消など、健康面が考えられた何かコラボレーションができたらと思う。

委員：

すごろくの活用方法だが、低学年はそのまま活用ができると思う。高学年は 5 年生の社会科で「私たちの生活と食料生産」という単元があり、国産と外国産の割合やそれをどう選んでいくかを学ぶ。その中で給食ではなるべく国産のもの、その中でも町田市産のものを選んで使用していることを伝えた。4 年生では「ごみの問題」を学習する。このように色々な単元とからめ、白紙のマス目を使い、子ども自身に学んだことの中から文言を考えさせたりして使用することが良いのではないかなと思う。無関心層が多い高校生、大学生についてはいきなり関心を持つのは難しいので、繰り返し伝えていくことが大切である。小学校は給食もあり、食育が行われているが、中学生には食育が行われていない状況があると感じる。これからセンター給食が始まるので、給食を活用しながら食育ができれば良いと思う。町田市には中学校に栄養教諭がいないが他市の中学校の栄養教諭に聞いたところ、中学生に関心のあるスポーツ、勉強の面から保健体育の授業をつかい、食について考えさせる授業を行っている。給食に関連付けて活動ができ、小学校、中学校と繰り返し食育を行っていくことができたら良いと思う。

委員長：

たくさんの提案、意見に感謝申し上げます。

それぞれの視点から様々な活動をしている中で、コラボレーションをしてより食育を広めていく方法もある。他の活動の連携が必要であれば、事務局に連絡をしていただきたい。

議事については以上となるので司会を事務局に戻したい。

5 その他（連絡事項等）

事務局：

次第5のその他に移る。

事務局から3点連絡事項を伝える。

1 点目、本日の議事でご説明した進捗調査シートについて、委員の皆様が実施した食育についても、ぜひ報告を願う。本件については、3月にメールにて依頼予定である。

2 点目、次回の町田市食育推進委員会の開催は、2025 年 7 月下旬から 8 月上旬ころを予定している。委員の皆さまの任期は 2026 年 3 月までとなっており、引き続きよろしく願いしたい。

3 点目、本日の謝礼については、公務の方、及び辞退されている方を除き、後日、指定の口座に振り込みをさせていただく。

連絡事項は以上。

6 閉会